

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況(学校質問紙調査)

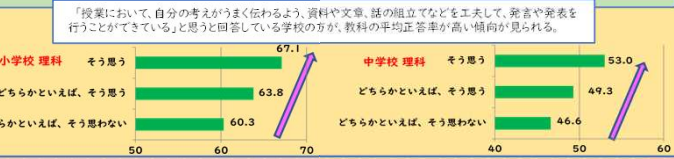
児童生徒は授業で、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている(9%)

小・中学校ともに全国平均を下回っていますが、令和3年度に比べ、その割合は増加しており、授業改善の成果が見られます。

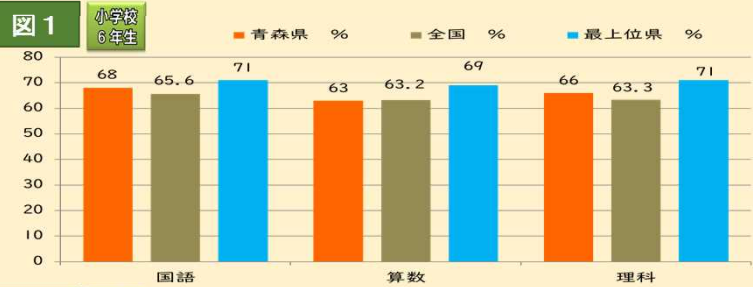


左図の結果から、各校において、次のことに留意した授業改善に引き続き取り組む必要があります。
・「個に応じた指導」の充実を図り、これまで以上に児童生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味、関心、意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援する。
・児童生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していく。
・児童生徒同士で、あるいは多様な他者と協働し、よりよい学びを生み出す探究的な学習や体験活動等の充実を図る。

【参考】質問「児童生徒は、(中略)話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができるか」への全国の回答と平均正答率(%) (クロス分析)



学力の状況と対策(教科に関する調査)

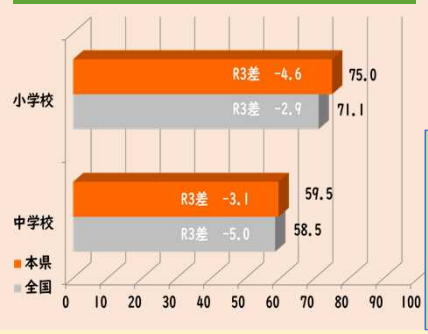


本県の平均正答率を全国や最上位県と比較すると、小・中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

学習習慣の状況と対策(児童・生徒質問紙調査)

家で自分で計画を立てて勉強する(学校の予習・復習を含む)(%)

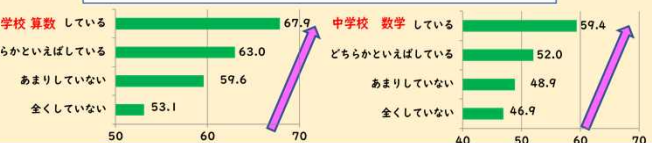
本県の児童生徒は家で自分で計画を立てて勉強している割合が全国と比べ、同程度が高い傾向にあります。



左図の結果から、今後も、児童生徒が個々の習熟の状況に応じて家庭学習を計画的に行うことができるよう、指導を継続することが大切です。

【参考】質問「家で自分で計画を立てて勉強しているか」への青森県の回答と平均正答率(%)

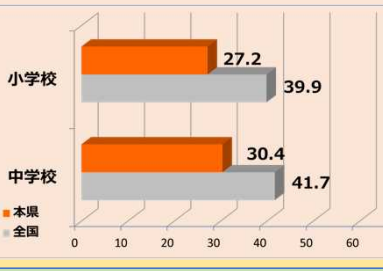
「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童生徒の平均正答率は、「全くしていない」と答えた児童生徒よりも10ポイント以上高い状況です。



ICTを活用した学習状況(学校質問紙調査)

児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている割合(%) ※週3回以上の割合

小・中学校ともに全国平均を下回っています。

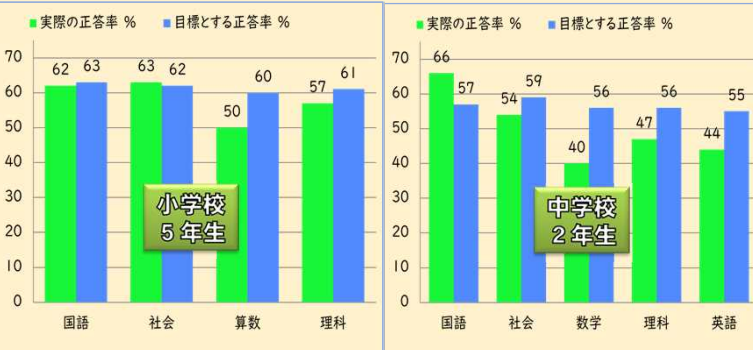


左図の結果から、各校において、本調査結果の活用について、次のことに留意した取組が必要です。
・教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図り、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かす。
・児童生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導、学習活動・機会の充実が活用されるよう、ICTの持つ特性を活用する。

【参考】質問「対象学年児童が自分の考えをまとめ、発表する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか」への青森県の回答と平均正答率(%) クロス集計



学力の状況(令和3年度県学習状況調査から)



小・中学校ともに、目標とされた正答率に届かなかった教科が複数見られたものの、学習した内容は概ね身に付いていると捉えていました。しかし、グラフや図、資料などから、情報を正確に読み取る力などの育成や、学習内容を日常の事象と関係付けて考えたり判断したりする力の育成に向けた指導に課題がありました。このことを踏まえ、各校では、各教科の自校分析を基に指導の改善に取り組むこととしていました。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業への取組状況と対策(児童・生徒質問紙調査)

前年度までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた(%)

本県の児童生徒は授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していた割合が全国と比べてやや低い傾向にあります。



左図の結果から、今後も基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成することが大切です。

【参考】質問「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していた」への青森県の回答と平均正答率(%)

